3. 世界各国における後期中等教育の動向

最近の後期中等教育の改造・改革が叫ばれ始めたその本質は，今日の科学技術教育の進歩に対応する教育はどうあるべきかということであろう。これらの発生源は各国によってそれぞれに違っている。純粋に教育的な立場から，産業界の要請から，あるいはまた国家的要請から等種々な立場はあろう。

しかし，世界の教育の流れは，これを無視することはできない。その本流は何といってもソ連であると思われる。ある程度の教育の大衆化が行われ，しかも科学技術教育を根幹とし，労働も重視し（ポリテフニズム）一方英才教育には十分意を注いでいる。この成果が，宇宙科学を頂点とする原子核物理・電気工学・機械工学の進歩発展に表われているといっても過言ではないと思われる。アメリカが，自然科学のある面でソ連に追い抜かれたと判断したとき，自然科学者達が中等教育における科学教育の改革に口火を切ったことが今日の大きな教育革新の動向になっている。

アメリカにおいては大衆化教育は一応完成し，更に科学技術教育を中心とする英才教育に国家的努力が払われつつあるのが現状であろう。

西ヨーロッパにおいては，むしろアメリカと逆に，例えばイギリスにおいては，あまりにも早期専門化・早期分化し過ぎ，教育の貴族化・階級化の悪い面もでてきているのが現状で，総合中学校などが声を大にして叫ばれている。中等教育を早期に，分化しなくて，一般的に，大衆化，平等化すべきであるとの声が挙がっている。このことは，フランス・ドイツなどでもほぼ同じである。またこれらの国は，いずれも大学進学者が10％内外であるのも，早期分化・早期専門化の一つの現象であろう。(他にも，国家的施策，選抜制等も関係していよう）西ドイツにおいては，6％に過ぎず，大学進学者の不足に悩む現象が表われている。

世界の主要国は科学技術教育の問題と，教育の大衆化の問題をかかえて，一つは一方の色を濃くし，また他の一つは他の色を濃くしてはいるが，いずれもその2面をかかえているには間違いない。

日本においては学制はアメリカに類似で，かなり教育の大衆化は達成されていると判断されるが，科学技術教育・英才教育・能力別教育等の問題と今後好むと好まざるとに関わらず考えていかなければならない。

今日の教育の多様化の問題も世界的な視野から比較検討していく必要があろう。　　（加藤十八）

Ⅱ　教育意見の調査

ここでは，下記のような調査票にもとずいて，本校高3の生徒（137名），高1・2年の保護者（172名），理科系大学生（22名）を対象に，調査を実施した。（昭和42年7月調査）なお昨年度は経営者，学者，小・中・高校の現場教師について，同種の調査を行っている。（紀要第12集参照）

調　査　票

1. 現在日本の高校への進学率は70％をこえて（アメリカは93％，ただし相当数途中でやめる。イギリスは37％）いますが，現在普通科の教育内容をこなしてゆけない者が在学生の⅓近くあるとの報告（41年12月初旬各新聞）も出ています。これらを考えあわせて，次の意見のうちでどれか一つに○をつけて下さい。

ア．高校は全員義務制にすべきである。

イ．希望者は全員入学させるべきである。

ウ．国民全体の水準から考え，現状程度で充分である。

エ．社会的必要度からみて，それほど進学する必要はない。

オ．能力のない者まで進学させることはのぞましくない。

2. 高校から大学への進学率も高くなっています（同年令の青年うち大学生の比率はアメリカ40％，日本20％，ソ連15％，イギリス9％，フランス8％，ドイツ6％）がそれについて次の一つに○をつけて下さい。

ア．もっと大学の数を多くし，希望者はなるべく多く進学させたい。

イ．現在の大学の数は多すぎるから，もっと少くした方がよい。

ウ．大学への進学率は現状程度でよいと思う。

3. 世界の主要国の大学の理工系（理工医農など）法文系（法経文など）の比率は下の表のようになっています（日本は3：7ただし国立大学のみでは7：3となる）これをみて下のどれか一つに○をつけて下さい。

	理　文
アメリカ	4：6
フランス	4.5：6.5
西ドイツ	5：5
イギリス	7：3
ソ　連	8.5：1.5

ア．国立大学が7：3であるから現状程度でよい。

イ．もっと理工系の

比率を多くしなければならない。

ウ．国立は全部理科系にして，文科系は私立に任すべきである。

イの場合理：文の比率はどの程度にまでしたらよいとお考えですか。

9：1　8：2　7：3　6：4　5：5　4：6

4. 現在大学の入試制度が問題となっていますが，それについて次の意見の一つに○をつけて下さい。

ア．現在の入学試験で能力ある者が進学できれば，それで結構だと思う。

イ．現在の入試制度は弊害が多いから全国統一の能力検査にすべきである。

ウ．各高校の内申書を中心として能力のある者を進学させればよい。

エ．各高校からすいせんされた者を中心に能力ある者をえらべばよい。

オ．進学希望者は全部進学させ，途中で落第させればよい。

5. 現在世界各国の高等学校のカリキュラム（教育課程）はほぼ次の四つのタイプとなっています。今後の日本としては次のどのタイプが最も望ましいと思われますか。この中で一つに○をつけて下さい。

ア．〔国語社会数学理科英語〕と〔体育芸術家庭〕とをそれぞれ5：2の時間配当で履習させ，大はばに全員に必修　（現在の日本）

イ．少数の共通必修科目と大はばなる選択科目とから編成　（アメリカ）

ウ．文科コースと理科コースとにわかれ，それぞれについて必修させる（西欧・ドイツ・フランス）

エ．科学技術に重点をおいて全員に必修　（ソ連）

6. 高校の学習をすすめる上で，能力とか，進路とかを考えて，普通科の中で更にコースをわけたらよいという意見もありますが，それについて，次のどれか一つに○をつけて下さい。

ア．同じ内容のものを同じコースで全員履習することがのぞましい。

イ．コースを内容とか，能力とか，将来の希望とかによって同じ学校内でいくつかのコースに分けるのがよい。

ウ．コース別に，それぞれ別の学校をつくるのがよい。

7. コースをわけることについて，英才コース・文理コース・就職コース・女子コースなどにわけるという案が出ていますが，それについてどのようにお考えになりますか。

8. 科学教育についての御意見がありましたらお書き下さい。

9. 道徳教育についての御意見がありましたら，お書き下さい。

10. その他，高校教育についての御意見がありましたら自由にお書き下さい。

以下，調査項目に従って結果の要点を示す。

1. 高校進学率の問題について

全体としてイ．（希望者全員入学）オ．（能力のないものまで入学させるのは望ましくない）が多いが，別表①のように，高3にむしろ(オ)が40%と比率の高いのが注目される。

2. 大学進学率の問題

特徴的なことは，むしろ現高3にイ.（大学は多すぎるから少なく）というのが45.8%と多く，父兄の22.6%の低率なのと対照的である。理科系学生はア.（もっと大学の数を多く……）が40.9%である。

別表②のように，生徒と父兄の比率の違いが注目されよう。

3. 理工系の比率の問題

イ．の（もっと理工系の比率を多く）がいずれも50%以上で最も高い，逆にウ．の（国立は全部理科系にして，文科系は私立に任すべきである）という極端なのは，別表③にもみられるようにわずかである。

一方，小問イ．の内訳（理科系：文化系の比率）についての意見は，高3生徒及び理科系大学生が7：3を支持するものが多い（30%）のに対して，父兄はむしろ5：5の支持者が多くなっている。(35.7%)

4. 大学入試制度の問題

これについてはかなり意見が分散しているが，オ．（進学希望者は全部進学させ，途中で落第させればよい）がいずれも高い率をしめ，特に理科系学生の59%が注目される。次で，ア.（現行）の支持が多い。しかし全体として意見の分散傾向は，大学入試制度改革に名案のないことを裏書きしているともいえよう。

5. 高校のカリキュラム

別表⑤に明らかなように，現高3生徒にア.（現行）支持が少なく（11.7%）逆に父兄ではそれが多い。高3生徒についてはイ.（少数の必修と多くの選択――アメリカ型）とウ.（文理コース別――西欧型）がそれぞれ44.6%及び40.8%で，意見が相対立しているといえよう。高3生徒に現行支持が少ないのは，身近かな大学受験をひかえて，大巾共通必修制に負担を感じているためとも見られよう。エ．のソビエト型はほとんど支持されていない。(2.9%)

6. 高校のコース別

ここでは高3にア.（同じコースを全員履習）の意見が少なく（12.8%），逆に理科系学生では非常に多く（62%）なっている。5．のカリキュラムの場合と同じく，入試をひかえた高3の希望が表われているのかも

しれない。父兄についてはア．とイ．（コース分化）ほとんど同じ程度の支持があり，（38.2%と41.6%），意見は対立していると見ることができる。このことは次の7にも現われている。

7. コース分けについての意見（記述式）

高3生徒及び父兄においては，無記が半分近く（45%）しかもコース分化についての賛否は接近している。

（別表）

問	各小問	高校3年生 男	女	計	%	理科系大学生 男	%	高校生の父兄 男	女	計	%
①	ア	10	8	18	14.4	4	18.2	9	6	15	8.7
	イ	26	16	42	33.6	8	36.3	36	13	49	28.5
	ウ	12	4	16	12.8	4	18.2	23	14	37	21.5
	エ	9	0	9	7.2	0	0	7	1	8	4.7
	オ	27	23	50	40.0	6	27.3	43	20	63	36.6
	小計	84	41	125	100.0	22	100.0	118	64	172	100.0
②	ア	30	16	46	34.5	9	40.9	40	26	66	37.0
	イ	34	27	61	45.8	8	36.3	26	14	40	22.6
	ウ	18	8	26	129.7	5	22.8	50	22	72	40.4
	小計	82	41	133	100.0	22	100.0	116	62	178	100.0
③	ア	25	17	42	30.4	5	25.0	46	27	73	42.7
	イの小問 A	2	1	3	4.7	0	0	1	0	1	1.2
	B	10	5	15	23.0	2	13.3	7	2	9	10.7
	C	11	8	19	29.7	5	33.5	14	7	21	25.0
	D	8	8	16	25.0	4	26.6	11	9	20	23.8
	E	5	9	14	21.8	2	13.3	22	8	30	35.7
	F	1	0	1	1.5	2	13.3	2	1	3	3.6
	イ	55	33	88	63.8	15	75.0	62	30	92	53.8
	ウ	5	3	8	5.8	0	0	6	0	6	3.5
	小計	85	53	138 (64)	100.0 (100)	20 (15)	100.0 (100)	114	57	171 (84)	100.0 (100)
④	ア	21	7	28	22.3	5	22.7	31	13	44	24.3
	イ	11	10	21	16.6	1	4.5	14	6	20	11.1
	ウ	15	7	22	17.5	3	13.6	31	12	43	23.7
	エ	3	3	6	4.8	0	0	13	9	22	12.2
	オ	24	25	49	38.8	13	59.2	28	24	52	28.7
	小計	74	52	126	100.0	22	100.0	117	64	181	100.0
⑤	ア	13	3	16	11.7	8	34.8	51	25	76	42.4
	イ	35	26	61	44.6	10	43.8	25	22	47	26.3
	ウ	34	22	56	40.8	5	21.7	38	15	53	29.6
	エ	3	1	4	2.9	0	0	2	1	3	1.7
	小計	85	52	137	100.0	23	100.0	116	63	179	100.0
⑥	ア	11	6	17	12.8	13	61.9	39	27	66	38.2
	イ	41	30	71	53.4	6	28.6	54	18	72	41.6
	ウ	30	15	45	33.8	2	9.5	19	16	35	20.2
	小計	82	51	133	100.0	21	100.0	112	61	173	100.0

反対理由としては

① あまり早くからコースを分けるのはよくない。

② 少くとも高校までは幅広く学ばせた方がよい。

③ 英才コースを特に設ける必要はない。

④ 女子コースを特に設ける必要はない。（女子の解答者に多い）

8. 科学教育について

高3（59.1%），父兄（79.6%）と無記が多く，余り著しい傾向は認められない。意見として現われた限りでは，内容の高度化，基礎の重視，特に実験の重視などの主張が目立っている。科学教育についての反対意見はほとんど見られないが，その他の意見の中に，環境条件整備を主張する例が多い。

9. 道徳教育について

ここでも，高3生徒と父兄に無記（68%と60%）が多い。それにしても，道徳教育そのものへの反対は少ない。むしろ理科系学生のように賛成が86%もあり注目される。ただし，その意見の内容は，新しい道徳教育（新時代に即応し，個人の自覚と人格の成長に役立つもの，或は体制的（権力による）道徳の強制ではなく，社会，集団の中での新しいモラルの形成……）の主張が多く，家庭や幼少年期の道徳教育の必要を説く者が多い。このことは父兄の意見の中にも多く認められる傾向である。

10. 高校教育一般について

この場合も無記（生徒，父兄については70%以上）が多い。特記されたものでは，人間形成，個性尊重，特活重視，基礎教育重視，予備校化反対，カリキュラムの改革，学校制度の改革等多岐にわたっているが，いずれも，現在の高校教育の問題点をえぐっている。特に，高3生徒の中に，制度改革への意見があり，科目を減らすと共に，大学の教養（2年）＋高校（3年）をつなぐ5年制高校などを主張しているものもあり注目される。一方，「男女共学反対」「大学予備校化結構」という意見，「バカは高校に入るな」などの意見や「もっと落第を多く」などというのもあり，現状のさまざまな矛盾や悩みを反映していて相対立する意見も多くみられる。

おわりに

以上の調査にあらわれた教育意見から，直接一定の結論や，方向を定めることは困難であろうが，しかし，調査そのものが，現状及び人々の願望，意見等をかなり率直に表明していると思われる。現われた見解は，相対立し，矛盾するように見えて，全体としてはやはり，こんにちの高校の教育の立遅れや欠陥が多くの人々に意識されているといえよう。逆にいえば現実をふまえながら，なお利害や打算を克服して，高い次元に高った改革のビジョンが要求されているといえないだろうか。

（高森　充）

Ⅲ　教育課程改訂への提言

①　現実における改革の要求と方向

世界的動向にあらわれた教育改革の動機は，一つはスプートニクショックであり，いま一つは大衆文化の普及と教育の大衆化状況である。

ⓐ　教育内容の現代化と高度化

現在の日本においても，科学技術の進展にともない，又その科学技術をより発展させるためにも，現在の教育内容を現代化（近代化）し，高度化する必要性に迫られていることはたしかである。

現実の教育内容や教育技術（指導法）のうちには，明治以来ほとんどかわらぬままに，しかも量的には著るしく増大した形で存続したものが少くない。特に高校の教育内容については，中学のそれとくらべて旧制の中学の教科内容の遺産が多く，しかもそのうえに，現実の社会的要求によってではなく，大学の入試によって極めて非現代的な形で教育の質と量が規定されているのである。

現在の高校，とくに普通科の課程で，この内容の量と質とについてゆけない生徒が3分の1にものぼるといわれている。

問題はこの内容を更にふくれあがらせることではなく，縮少してゆく中で技術革新に対応させて現代化し，高度化してゆくことである。現在および将来において最も必要とされる「教育」の内容を現代化，高度化してゆくためには，不必要な内容を切りすててゆくこと――教育内容の精選がどうしてもその前提にならざるを得ない。

ⓑ　教育の大衆化状況への対応と「多様化」

後期中等教育の内容を高度化――一般的なレベルアップ――の形で考えようとした場合，当然つきあたる壁は，教育が大衆化し，かっては中等教育の対象にさ